

持経宿改築・玄関側の土台・柱・軒桁改築作業など

その2(日帰り組報告)

◇実施日；平成27年6月16日(火)～18日(木)

◇参加者；棟梁；木下嘉彦、大工；浦東 進、大工；中村良也

山上皓一郎、山上昌子。

以上5名は2泊3日。

1泊2日(17日～18日)；青木宏充。

17日帰り；玉岡憲明、沖崎吉信、川島 功、橋本 梓、

畑林秀味、玉岡 明、梶野照雄。7名。計13名。

6月17日(水) 曇時々薄日

玄関側の土台・柱・軒桁等の改築作業は、大工3人で行うことから素人の出番がなく煩わしいので、かしき方の山上夫妻の支援以外の方はご遠慮願いたいとの事でしたが、大工さん達に食料補給をする事を口実に出向いた。

新宮組(6人)が行くのなら、煤けた梁等の掃除の仕方を相談したいと梶野氏、改築具合を覗きたい青木氏が参加した。

玉岡さんには、持経宿小屋看板の揮毫をお願いし、村吉氏に彫って頂く事から下見に同行された。

梶野氏と白谷林道ゲートで合流し9時20頃に持経宿へ。

昨日は、午後から雨が降ったにも関わらず作業され、旧玄関側と軒先1mの延長の土台・柱・軒桁が取替られている、さすがと感心する。

今朝から窓台とサッシ枠の据付作業をされている。

宿内の掲示ベニヤが廃棄されていて、墨書2枚を写真に撮る。



新設建立・軒先延長柱廻りと大工さん

一枚目は「持経宿小屋利用する皆さんへ」

この小屋は、奥駈葉衣会会長前田勇一氏が西奥駈道再興を目的に大勢の方々の協力で建設されたものであります。

永く維持され使用されるために左記の事項について、ご協力をお願い致します、

- 一、到着時、出立時に掃除すること
- 一、焚火には細心の注意を(水場は200m先です、出来るだけ沢山の水を補給)

- 一、コンロを使う時は必ずコンロ台を使い直接床に据えぬこと
- 一、食料等一切小屋に残さぬ事(残飯類は出来るだけ遠くへ捨てる)
- 一、ゴミは全て持帰ること

- 一、出発時全部の戸締りをする事
- 一、宿泊ノートに住所、ご氏名、感想等を記入すること

この持経宿小屋並びに平治小屋の維持管理のため、お一人千円程を賽銭箱に納入して下さい。直接送金して頂く方には、山便りなどをお届けします。

火の後始末は嚴重に

持経宿管理者

十津川村役場
奥駈葉衣会

新宮山彦ぐるーぶ世話人代表 玉岡憲明

二枚目は、歌聖西行法師(1118-1190)の事

「古今著聞集」巻二の記事によると西行法師は、熊野から大峰を越える世にも過酷な「順峯の修行」が二度に及んでいる。

「身はしたたかなれば 人よりもことにぞつかえる」と言い乍らも、先達宗南坊僧都行宗の容赦をしない厳しい修業に「さめざめ泣いた」とも記されている。

食を減らし、重い荷を負い、水を汲み、木を伐る修行は、地獄餓鬼畜生の三悪道の苦患であると、ここに最初の峯入りをする「新客」は笈と斧と闕伽桶を背負い、一切の雑事に従うことが規則であった。この二度の難行苦行の中で西行法師は悟りを開くのであるが、歌も18首詠まれている。いまその幾つかをここに紹介します。

・ 古屋と申す宿にて 神無月時雨ふるやに澄む月は 曇らぬ影も頼まれぬ哉

・ 東屋と申す所にて 時雨の後月を見て神無月 時雨晴るればあずまの 峯にぞ月はむねと澄みける かみな月谷にぞ雲は時雨るめる 月澄む峯は秋にかはらで

・ 天ほうれんの山嶽と申所にて 釈迦の説法の座の石と申す所を 拝みて 此處こそ御法説かれける所よと 聞く悟りをも得つる 今日哉

・ ？ 伴知(ホベ)と申す宿にて月を見けるに梢の露の袂にかかりければ 梢も洩る月もあわれをおもうべし ひかりに具して露こぼるる (雲は迷い雲 月は悟りの月) 奥駈葉衣会文化部

の墨書と持経宿から玉置山の摩絵図が描かれたベニヤ板である。棟梁から取替えた腐朽の土台・柱等の廃材を片付ける様にと指示があり、廃材を小屋前の下林道に落して釘を抜き、軽トラで三又路の先日の薪小屋廃材置場に運搬、大半が薪になるだろう。

カマドを外に出す事になり、四人でやっと持ち上がる重さで、てこ板を下に差込み、板両端を持ち移動させるが、柱があり邪魔

になり、足場板に滑らせ不動堂横に仮置きする。

小鳥雛(ヤマガラ)が飛んでくる、梶野氏捕まえ放鳥すると心配な親鳥がしきりに鳴いている。何と児嶋さんが設置した巣箱からの巣立ちである。巣箱の位置が低すぎる、小屋に近すぎると散々言われていたが、ヤマガラには格好の巣となった様だ。



カマド土台撤去中

山上奥さん調理の昼食 改築の玄関側(室内から)

カマド台はコンクリートの塊で動かせず、玉岡前代表の了承を得て大ハンマーで叩き壊すが、鉄筋入りで一苦労する。

板壁の内壁となっていた薄いベニヤ板は、バラバラになり一旦不動堂裏の竹を刈った所に運搬仮置き。その後、外の焼却炉を組立て焼却する。

延長した軒先に屋根からの雨が落ちないようにブルーシートを張り12時頃に昼食。山上奥さん調理の豆ご飯・酢の物・すまし飯が日帰り組にも配って下さる。

昼食後、トユを外す。玄関のサッシ枠据付のため、棟梁は削岩機でコンクリートのハツリ、支障となる入口の踏み石を梶野・川島が一旦掘り出す。玄関枠を固めるモルタル練りの指示があり、山上・梶野・川島が煉る。このモルタルで石垣の型枠を外した穴の箇所を埋め仕上げる。



玄関サッシ枠据付のハツリ モルタル煉り 薪小屋に座る大工さん

14時過ぎに西瓜が差入され、山上奥さんの入れて下さったコーヒーとパイで休憩。休憩中は巢立ったヤマガラ親子がいないか棟梁は、玄関サッシ枠をモルタルで隙間を埋め固定すると共に掘り出した踏み石を戻し固める。天候下り気味なので暗い曇天になり、発電機による電灯を点け作業して下さる。

発電機は、フル運転で帰る迄にガソリン10リットル使われ、後5リットルが有るので明日迄の作業には支障ないと思われる。



玄関前で休憩中

電灯を点け作業

記念撮影

ブルーシートが張られ、これじゃ雨でも作業じゃ！の冗談も。玄関側の入口・窓枠据付は、本日中に完了する様で不動堂からガ

ラス戸を出すように言われる。

15時過ぎになり、下山前に棟梁以下大工さん、山上夫妻に作業をお任せして、全員で記念撮影する。

青木氏が宿泊すること邪魔になるのではと思ったが、15時25分日帰り組7人が下山する。

行動タイム

6月17日(水)

新宮(沖崎宅)7:00→8:00 飛鳥・サークルK→8:45 白谷林道ゲート

→9:20 持経宿→12:00 昼食 12:40→14:10 休憩 14:30→持経宿

15:25→白谷林道ゲート 16:00→熊野市西山經由→17:40 新宮。

(記 川島)